

だいぼんてんたてあと
大梵天館跡

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 小国
- ◇ 所有者 個人

三方を^{おぐに}小国川、^{ゆざわ}湯沢川、^{つちさわ}土沢に囲まれた丘陵の先端部を占め川からの比高120mの天然の要害です。

丘陵の基部に2条の空堀を構築、先端部にも2条の空堀、砦を構え、南北276m、東西30mに及ぶ主郭、副郭、帯郭がみられます。

この館は、三戸南部氏の臣、^{たけだひこじゅうろうただ}武田彦十郎忠直が^{なお}小国村、^{おぐにむら}江繫村と^{えつなぎむら}金沢村の一部を与え

られ、文亀2年(1502年)に入部したとされ、

^{さまのすけなおいえ}2代左馬助直家、3代彦衛門直信の3代(89年間)使用されたものとされています。



主郭の跡